

100年分の技術雑誌から懐かしの無線機、パソコン、ラジコンまで!!

夢の図書館 東京都青梅市

「マイコン博物館」「模型とラジオの博物館」併設



▲ 1970年代を中心としたアマチュア無線機、およそ70台がラック3面に並んでいる

2019年4月28日、東京都青梅市にオープンした私設図書館「夢の図書館」。月刊誌「アスキー」の初代編集長を務めた吉崎 武さんが、“人生をかけて集めた”

という、明治・大正時代から現代までの100年分(約2万冊)にのぼる貴重な技術系雑誌が、タイトルごとに整理され、来館者は手にとって閲覧が可能です(入会手続きと事前予約が必要)。

大正13(1924)年に創刊し、現在も刊行されている月刊誌「子供の科学」は創刊号からありますし、大正から昭和初期の“ラジオ黎明期”に刊行されたさまざまな無線・ラジオ雑誌や、今も続く雑誌の貴重なバックナンバーが豊富に揃っています(蔵書リストはホームページで公開されています)。

ここを訪れたある70代の方は、少年時代に自身が投稿したという雑誌を探し出し、半世紀ぶりに出会った投稿を見て、感無量で涙ぐんでいたというエピソードを吉崎さんが披露してくれました。

館内には「マイコン博物館」「模型とラジオの博物館」を併設。なかでも吉崎さんが収集した1970年代の製品を中心とした懐かしいアマチュア無線機が、大型ラック3面に並ぶ姿には圧倒されます。

また、歴代のマイクロコンピューターや機械式の卓上計算機、1960年代のUコン模型飛行機など、今となっては入手困難で懐かしい製品も年代順に展示され、訪れる会員を楽しませています。

そのほか「マイコン体験コーナー」「工作デスク」もあり、入会前の無料見学も受け付けていますから、一度、訪れてみてはいかがでしょうか。



◀ 2019年4月28日に正式オープンした「夢の図書館」。「マイコン博物館」「模型とラジオの博物館」も併設

アマチュア無線機や歴代のマイクロコンピューターなどを年代別に展示▼





◀ 1970年代のアマチュア無線機。短波帯のモデルは回路に真空管を使用したものが主流。また50MHz帯のAM/FMポータブル機も人気だった

ラックの上部4段には、デザインを統一した井上電機製作所/アイコム製のV/UHF帯モノバンド機シリーズなどが並ぶ▼



◀ 上部は1960年代のUコン模型飛行機。ワイヤーで繋がれた飛行機をぐるぐる回して飛行させる。下はトリオ(現・JVCケンウッド)の「TX-88A」と「9R-59」の送受信機セット



◀ 子供向けの科学・ラジオ誌で通信販売を行っていた、科学教材社の0-V-2真空管ラジオキット



◀ いわゆる「電卓」が普及する前に使われていた機械式の手動計算機も展示



▲ 黎明期に愛用された日本製と米国製のマイクロコンピューターも多数展示されている



▲ 米国アップルコンピュータ(当時)の製品。右からApple I(メインロジックボード)、Apple II、Apple III



▲来場者の閲覧スペース。閉館ぎりぎりまで過ごしたり、遠方から泊まりがけで訪れたりする会員も少なくないという

◀膨大な技術系雑誌が収納されている書庫（閉架式）。雑誌別で年代順に整理整頓されている



▲「子供の科学」(誠文堂新光社)
大正13(1924)年10月創刊号



▲昭和23(1948)年11月発行
の「ラヂオアマチュア」(科学出版社)第22号



▲昭和5(1930)年の「無線と実験」
(誠文堂新光社)8月号はJ1DN
杉田氏のシャックが表紙



▲大正11(1922)年の米国誌
「RADIO NEWS」も美しい状態で
保存



▲昭和29(1954)年10月号
の「初歩のラジオ」(誠文堂新光社)はJA1AN 原
氏の運用風景が表紙



▲懐かしい無線雑誌のバックナンバーも揃っている

戦後、JARLの機関誌として創刊した
「CQ ham radio」(科学振興社、CQ出版社)もある▶



「夢の図書館」(株式会社 技術少年出版)

- ・住所：198-0042 東京都青梅市東青梅2-16-5 賀根井ビル 2F
- ・交通：JR 青梅線「東青梅」北口 徒歩3分
- ・読書室開館時間：11時から21時(事前予約制)

・開館日：予約日のみオープン(詳細は公式ホームページ参照)

・ホームページ：<https://www.dream-library.org/>
「夢の図書館」の利用には「夢の図書館 パートナー会員証(1年間有効)」と「1日利用券」が必要です。利用料金や事前予約方法はホームページでご確認ください。入会前の無料見学も可能です。